

ある日の育児日記から

佐藤 和代

(49)

先日、義妹の家へ行ってきました。義妹の一家は、霞ヶ浦のそばにログハウスを建てて、東京から引っ越していったばかり。どんな家かな、と興味しんしんで出かけたのです。

さて、着いたとたん、圭も有も争うようにして中へ。有は、初めての家などではしばらく私にしがみついているのですが、ここは別でした。壁も床も家具も木。すべすべした手ざわり、ほのかな香り：三人のいとこと一緒に、家中ころげまわって遊び始めました。「外も広いよ、行こう」と誘っても「えー、なんで」と不満そう。そりゃそう

かもね、私だって中にいたい。だって、ふきぬけの居間に大きなストロブ、二階の子ども部屋は屋根裏部屋の雰囲気：子ども

どもの頃あこがれたハイジの家みたい。この際「子どもは外で元氣よく」なんてヤボはやめ！

以前、地方の旧家で育った友人が言っていました。「友だちが家に来た時『何して遊ぶ』って聞くと、みんな『家の中見たい』って言うの。で家中見て回ると、満足して帰ってしまうのよ：」子ども



どもって、家が好きなのですよね。さわりごこちのいい家や、隠れ家のような家ならなおさら。「またあのおうち行こうね」というのが、このところの圭と有の口ぐせなのです。



有の屋99キは、意外に力強い。圭が男の子！